

第3回洋上風力関係船舶確保のあり方に関する検討会

(議事概要)

日 時：令和8年1月28日(水)15:00~17:00

場 所：AP 新橋 (WEB 会議併用)

1. 事務局より、資料に基づいて説明を行った。

2. 意見交換において、以下のような議論があった。

<議事②洋上風力関係船舶の需要予測に関する調査結果>

○対象期間全体を通して、AHTS が 6 隻、CLV が 1~2 隻必要になるという理解で良いか。

⇒ (事務局) 計算期間全体では、AHTS は 5 隻、CLV は 1~3 隻必要と見込んでいます。

○維持管理段階では SOV が年間 1~2 隻、CTV が 4~8 隻とあるが、期間全体では相当な隻数になる。

⇒ (事務局)、SOV と CTV はプロジェクトにて所有し長期的に運用する前提でモデル化しているため、新規案件が続く限り毎年新たな隻数が積み上がっていくことになる。

○年ごとの建造隻数をすべて合計したものが、日本国内で最終的に保有する SOV の総隻数になる、という理解で良いか。

⇒ (事務局) ご理解のとおりである。建造隻数の合計が国内で最終的に保有する SOV の総隻数である。

○ヨーロッパで SOV の数が十分あるのであれば、ヨーロッパから船を持ち込めばよいのではないか。

⇒ (事務局) 日本で全て建造を想定していること等、前提を記載することとする。

○対象海域は 2025 年 10 月 3 日時点の情報を基に説明されているが、船舶航路と洋上風力関連施設の離隔距離に関する新たな動きについては、今回の資料には反映されていないか。

⇒ (事務局) 反映していない。

<議事③洋上風力関係船舶及びその搭載機器に求められる性能に係る調査結果について>

○DP 能力計算結果に基づき DP2 の位置保持能力を算出する方針としているが、今後、流れや風などの海象条件を含めた計算内容を資料に記載する予定があるか。

⇒ (事務局) DP の条件については、報告書に追加する。

○ギャングウェイは船体中央に設置されているため、揺れの大きい船尾部の加速度よりも大幅に低減されるという理解で良いか。

⇒ (事務局) 船体中央は上下揺れがほとんど発生しないため、このような計算結果となった。

<議事④洋上風力関係船舶の確保に向けた課題の把握及び必要な取組みの整理>

○国際情勢が不安定化しているため、部材や設備の調達が難しくなる可能性があり、それが事業全体の進行に大きな影響を与えるおそれがある。

<議事⑤報告書構成（案）>

○前提条件や設定が変わる可能性を含め丁寧な補足説明を記載して欲しい。

○内航海運業界の船員に関する検討は行っていないことを明記して欲しい。